



# 経済日誌

2024年5月15日～2024年6月14日の主な出来事(新聞記事等より)



## 5.17 2021年度県版GDP 6.0%増

熊本県は21年度の県民経済計算を発表した。県経済の規模を示す県内総生産(県版GDP)は、物価変動の影響を除いた実質ベースで前年度比6.0%増の6兆3090億円だった。実質経済成長率のプラスは2年ぶり。また、景気実感に近いとされる物価変動を含んだ名目ベースの県内総生産は5.9%増の6兆4173億円で、実質と同じく2年ぶりのプラス成長となった。

## 5.25 熊本市の消費者物価 2.2%上昇

熊本県統計調査課が発表した4月の熊本市の消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、前年同月比2.2%上昇の106.7で、伸び率は2カ月連続で鈍化した。項目別では、教養や娯楽に関連する品目の上昇が目立った。伸び率は書籍・他の印刷物が10.8%、運動用具類など教養娯楽用品は9.6%。教養娯楽サービスは4.0%で、主に宿泊料の伸びが影響した。

## 5.27 産業団地の整備や分譲進む

益城町は益城熊本空港IC北側で約9.4haの産業団地の整備計画を進めている。県内への半導体関連の工場や物流拠点といった進出需要への対応が狙い。また、西原村は、鳥子地区に整備を進めている新しい工業団地の分譲地(約8ha)について、購入希望企業の申込期間を7月8日～8月30日とすると決めた。TSMCの進出を受け、工場や研究施設の立地を見込む。

## 5.31 以降は会員専用ページにて公開しております。4年ぶりの縮小

ソニーグループは合志市に画像センサーの新工場を建設する。熊本県内をカ所目の生産拠点で、主にスマートフォンの搭載するカメラ向けの画像センサーの需要増に対応する。今年2月に取得した隣接地10haを加えた計37haに建てる。稼働時期や投資額は明らかでない。2023年度は、2024年度一般会計当初予算に854億円を

## 6.5 県内企業 台湾で初の合同説明会

TSMCの菊陽町進出を機に熊本県内の企業で、台湾の学生を採用しようとする機運が高まっている。熊本商工会議所は5月30日、31日に台湾の大学を訪ね、県内企業の合同就職説明会を初めて開催。学生を熊本に招いてのインターンシップ(就業体験)も拡充し、人材獲得を支援する。

## 6.6 県の賃上げ率 4.53%

連合熊本は2024年春闘の第3回回答集計結果をまとめ、回答を受け取った県内80組合の平均賃上げ額が前年同期比1775円増の1万2669円(定期昇給含む)だったと発表した。賃上げ率は4.53%で、高水準が続く。連合熊本は「特に今年は中小企業での賃上げが目立つ。福利厚生など労働条件面でも良い回答が出ているようだ」としている。

## 6.7 熊本県「半導体ビザ特区」に指定

政府は国家戦略特区諮問会議の会合を開き、規制緩和を地域限定で先行実施する「地域課題解決連携特区」に福島・長崎両県と宮城・熊本両県の二つの特区を指定することを決めた。宮城・熊本では、外国人材の受け入れ拡大のために在留資格の審査迅速化や、半導体関連人材の早期育成に取り組む。

## 5.31 熊本港 コンテナ4年ぶり増

熊本港の2023年のコンテナ取扱量は前年比17.5%増の1万5600トンとなり、4年ぶりに増加した。取扱量は、

## 6.14 県内景況感 2期ぶりの改善

調査によると、熊本県内の景況判断指数は全産業でプラスに転じた。4～6月期の法人企業景況判断指数は、

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)